

成田市議会議員

別府ひろたか 議会活動報告

会派/政友クラブ 所属委員会等/教育民生常任委員会(副委員長)・広報広聴委員会
 連絡先/〒286-0013 千葉県成田市美郷台3丁目15番地2 TEL・FAX 0476-24-4757 発行/令和8年3月



成田市の皆さんの～幸せへの架け橋～として

市民の皆様から市議会議員という役割をいただき、早いもので3年が経過しようとしています。議員任期4年間も残り1年間となりました。この3年間、部活動の地域展開・いじめ対策・不登校支援・学校給食・学校施設など教育分野のことや老朽化が進むインフラ関係、公共交通、複合施設についての取り組みを主に行いましたが、いずれも課題は山積しています。これからの1年間で、できる限り前進するように努めていく決意でいます。

令和8年度より休日の部活動地域展開が完全実施

教育委員会が主導で、令和5年9月の第1期モデル事業から始まった部活動の地域展開。現在は第3期モデル事業が行われており、3月末でモデル事業も終了となります。

いよいよ4月からは、運営事業者主導の休日の部活動地域展開がスタートします。私もこれまで何度も質問や提言をさせていただきましたが、教育委員会と運営事業者で協議を重ね、現段階で考えられる理想的な形でのスタートとなります。



※イメージ

実施の方法

- 大会やコンクールの参加を目的とする「ステップ型地域クラブ」では99クラブ、趣味嗜好を重視した「エキサイト型地域クラブ」では4クラブ、合計103クラブで行う予定。
- 学校にある全ての運動部と吹奏楽部をそのままの形で地域クラブにすることが原則。
- 学校に部活動がない種目については、隣接校と統合して地域クラブを立ち上げる。
- 人数が少なくチーム編成ができない、または練習に支障をきたす人数となった場合は、拠点内の隣接校と統合する。
- 統合したクラブの活動場所については、ローテーションで活動する予定。
- 柔道・男子バレーボール・バドミントン・水泳は、市内で各1クラブ。
- 指導者については、1クラブにつき2名配置。
- 受益者負担額については、年会費5,000円、月会費が3,500円。中学3年生と義務教育学校9年生については、7月に開催される大会・コンクール後に活動を希望しない場合は、年会費の一部を返還する予定。

令和8年度 成田市休日部活動地域展開 クラブ一覧

ステップ型クラブ	性別	成田中央		成田北部			成田ニュータウン南		成田ニュータウン北			クラブ数
		成田	遠山	久住	下総みどり	大栄みらい	西	公津の杜	吾妻	玉造	中台	
陸上競技	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ソフトテニス	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
軟式野球	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
剣道	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柔道	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
サッカー	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
卓球	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
バレーボール	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
バスケットボール	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
バドミントン	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水泳	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
吹奏楽	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
エキサイト型クラブ	男	☆成田ウィンドオーケストラジュニアユース					☆NARITA CLUB (バスケットボール)					4
	女	☆エキサイトバレーボールクラブ					☆ダンスクラブ					

○: 部活動実施 —: 部活動未設置 青枠: 単独クラブ 赤枠: 統合クラブ

ひろたかの一言

私は中学校の教員時代、学校部活動主任を長年担当してきました。全ての部活動に専門の先生を配置できれば良かったのですが、専門の先生が揃っているわけでもありません。その様な状況で、生徒の成長のためにと専門外でありながら顧問になっていただいた先生方もおり、いまだに申し訳ない気持ちと感謝の気持ちが残っています。

4月からは、休日は専門の方に見ていただくことになり、楽しみと期待が膨らんでいるかと思えます。より充実した活動をしている姿が見られることを楽しみにしています。

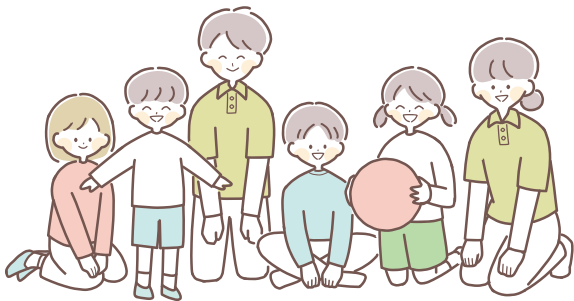
懸念されることは、統合クラブで自校に部活動がない場合です。部活動が存在すれば平日も練習できますが、練習量には差が出てしまうことは避けられません。自分自身で課題を持ち、工夫して練習をして自らを成長させていくことになりませんが、その取り組みは将来において、必ず役に立つことになりまます。練習量に差ができるから避けるのではなく、挑戦してみることも良いのではないのでしょうか。

指導者の募集

現在、休日部活動地域展開の指導者を募集しています。特に陸上競技・ソフトテニス・卓球・バスケットボール・バレーボールの指導者を募集しているところです。種目の経験があり、子供達と活動してみたい方は、エントリーしてみてもいいでしょうか。日頃味わうことができない喜びや感動があり、青春を取り戻した様な豊かな生活になると思います。指導者報酬は、1回の指導時間は3時間、時給1,800円。大会・コンクールの引率は、日給8,000円に交通費1,000円となります。

問 支援員の確保と配置について

答 支援員の配置基準は条例により各児童ホームに2人以上と定められているところ、本市では40人以上が入所している児童ホームには3人の支援員を配置することを基本としています。さらに、入所している児童の状況などによっては支援員の増員が必要となることから、約170名の会計年度任用職員を採用し、基準を満たした配置をしています。本年度は医療的ケアが必要な児童をお預かりしたことから、新たに看護師1名を採用し配置しています。



その他の質問

- 支援員の研修制度について
- 学校との連携について

問 運営上の主な課題について

答 各児童ホームにおいては入所児童の状況等に応じて基準を上回る人数の支援員を配置しているところですが、現場では日々児童同士のトラブルなどが発生しており、支援員がその対応をしている間や、お迎え時の保護者対応などにより、保育が手薄になってしまうという実態があることから、さらなる支援員の確保が必要と考えています。

また、一番の大きな課題は待機児童対策であり、令和3年度以降は、待機児童が多く発生していた久住、平成、成田、本城児童ホームにおいてそれぞれ第三児童ホームを増設するなど、受け皿の拡大を図ったことにより待機児童は減少してまいりましたが、解消には至っておりません。今後の待機児童対策といたしましては、家庭の状況や保護者の就労状況などを勘案し、これまでの入所児童の出席率や長時間過ごす環境などを考慮した上で、可能な範囲で定員を超過する児童の受入れを行う弾力的な対応を継続し、待機児童数を抑制してまいります。

また、入所を希望する児童が今後も増加する見込みがある児童ホームにつきましては、学校との協議の上、授業に支障のない範囲で教室を一時的に利用させていただくことや、児童ホーム支援員の増員、施設の増改築工事や定員に余裕のある児童ホームの利活用など、各児童ホームの状況に応じた手法により待機児童の解消に取り組んでまいります。

行政視察報告

① 熊本県熊本市「新しい学校部活動の在り方」について

令和7年7月10日(木)に、熊本県熊本市の「新しい学校部活動の在り方」について行政視察を行いました。

熊本市では、国の方針を受け令和4年12月に外部有識者からなる「熊本市部活動改革検討委員会」を設置しました。

市立学校の部活動において、子供の多様な体験の機会を確保するとともに、持続可能な運営を図るための今後の在り方について議論を重ね、令和6年3月の「熊本市部活動改革検討委員会」において、学校部活動には教育的意義があることや地域の受け皿の確保が見通せない状況であること等を踏まえ、指導を希望する者が行うことを前提に、学校部活動は継続すると判断し、令和7年3月に熊本市の方針を策定しました。

「こどもの選択肢を増やす」「保護者の安心感を守る」「教職員の負担を軽減する」「地域や企業と積極的に連携する」、これら4つの柱で新しい学校部活動を進めていくことにしています。

「こどもの選択肢を増やす」ことについては、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の機会を確保するための拠点校部活動の推進や親しむことや楽しむことを中心とした「チャレンジクラブ(仮称)」を創設し、多様な活動を体験できる場をつくります。

「保護者の安心感を守る」ことについては、地域と連携して学校

部活動を継続することで、保護者の安心感を維持することや自校または近隣校での活動を行い、できるだけ近距離で実施します。

「教職員の負担を軽減する」ことについては、指導を希望する教職員と外部指導者に加え、退職教員や市職員、大学生、地域住民など幅広く指導者を確保します。また、元教員による部活動コーディネーターを配置し、指導者への助言、学校との情報共有の場の設定、保護者との面談等、指導者のバックアップ体制を充実させます。

「地域や企業と積極的に連携する」ことについては、指導者の協力とともに安定的な財源の確保のために、受益者負担と公費負担だけでなく、企業が部活動を財政支援する制度を構築します。

現在は、1600名の指導者の確保や財源の確保をはじめ、様々な体制を整える準備期間としており、令和9年の4月からではなく、総合体育大会終了後の新チーム結成時からスタートする予定です。



※イメージ

1 部活動地域展開について

問 休日の部活動地域展開を行う種目とクラブ数について

答 本年4月からは、原則として現在の中学校の部活動を基本とした合計103クラブを立ち上げる予定です。在籍する学校に該当する種目がない場合についても、近隣の中学校で活動する地域クラブに参加可能となる体制を整えます。柔道、男子バレーボール、バドミントン、水泳の4種目については、市内1か所のみとし、市内全域から参加できることとします。

大会参加を目的とする「ステップ型地域クラブ」として、12種目・99クラブの立ち上げを予定しています。実施する種目ごとのクラブ数は、陸上競技が10、ソフトテニスが17、軟式野球が8、剣道が5、サッカーが7、卓球が14、バレーボールが11、バスケットボールが14、吹奏楽が10、柔道、バドミントン及び水泳につきましては、各1クラブを予定しています。大会参加を目的とせず、子どもたちの趣味嗜好を重視した「エキサイト型地域クラブ」は、吹奏楽、バスケットボール、バレーボール、ダンスについて各1クラブを立ち上げる予定であり、市内全域からの参加が可能となっています。

問 中学校及び義務教育学校の生徒、小学校及び義務教育学校の児童に対する説明について

答 昨年11月から12月にかけて指導主事が市内全ての小学校及び義務教育学校を訪問し、6年生を対象とした説明を行いました。本年1月には各中学校、義務教育学校の部活動担当教員を集めた研修会を実施し、その内容を受

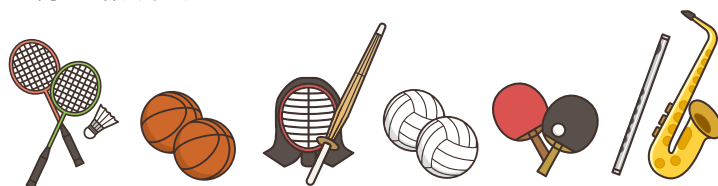
けて各学校では教員が中心となり、新入生保護者会や中学校1・2年生及び義務教育学校7・8年生を対象とした説明を行っています。先月28日には、成田市教育委員会において小学校6年生、中学校1・2年生及び義務教育学校6・7・8年生の保護者を対象とした説明会を開催し、地域クラブへの参加方法など本年4月からの部活動地域展開について丁寧に説明を行いました。

問 生活困窮家庭に対する支援策について

答 経済的な理由によって、子どもたちの活動機会が奪われることのないよう配慮が必要であると考えています。そのため、経済的に困窮する世帯に対しましては年会費及び月会費の全額を補助する制度を設け、希望する全ての生徒が安心して参加できる環境を整備します。

その他の質問

- 指導者確保の現状について
- 指導者の指導の報酬額と大会やコンクール等に引率する際の報酬額について



2 児童ホームについて

問 運営箇所と入所児童数、待機児童数の状況について

答 本市では市内21か所の小学校および義務教育学校の敷地内に38の児童ホームを、合計1千575人の定員で設置しています。本年度は、遠山児童ホームの入所申請者が1名となり、当該児童および保護者の意向で三里塚児童ホームへの入所を希望されたことから、遠山児童ホームを除く37の児童ホームを運営し、本年2月1日時点で1千432人の児童を受け入れています。待機児童については、三里塚児童ホームの10名と八生児童ホームの6名、合わせて16名となっており、

学年別の内訳としては、4年生が8名、5年生が7名、6年生が1名と、高学年の児童を中心に待機が発生しています。



※イメージ

ひろたかの所感

熊本市では、学校部活動を残し、新しい部活動の展開としていますが、可能であればどの自治体においても実践したい理想的な部活動地域展開を行おうとしています。

本市においては、私が一般質問を行った令和7年9月の時点では、人数が少ない部活動の統合や指導者確保が困難な状況であること等から、4拠点方式で休日の部活動地域展開を完全実施する計画でした。その進め方、指導者確保の状況や質の担保、活動場所への移動など様々な質問をさせていただき

ましたが、その後、教育委員会や運営事業者による度重なる検討をしていただいた結果、12月定例会の教育民生常任委員会では、令和8年4月より新たな休日の部活動地域展開を行うことが報告されました。その内容については、各学校の部活動がクラブとして展開され、人数が少ないクラブについては拠点内での統合や拠点を超えての統合で展開していくというもので、まさに理想的な地域展開になるものでした。

② 岐阜県大垣市「不登校支援」について

令和7年10月2日(木)に、岐阜県大垣市の大垣市教育総合研究所にて行政視察を行いました。

岐阜県大垣市教育委員会事務局では、教育総合研究所を設けており、学校支援センターと情報・研修センターの拠点として、学校や児童生徒、教職員や保護者への指導・支援を行っています。

学校支援センターでは、教育相談を中心に不登校児童生徒が通う適応指導教室「ほほえみ教室」と「とまり木教室」の2カ所の運営、児童生徒・保護者・学校職員を対象とした来所相談や電話相談を行っています。また、学校訪問を行い、学級参観、カウンセリング、ケース会議への参加、生徒指導相談員による支援をすると共に、家庭訪問を行い、児童生徒・保護者の生活改善を図るための相談活動や個別支援を行っています。

大垣市の不登校児童生徒数の状況は、全国で少子化が進む中で不登校児童生徒数が年々増加している状況と同様な傾向です。ここ数年では、中学生よりも小学生の増加が顕著で、今年度も同様な傾向となっています。不登校への対策・対応は喫緊の課題となっていることから様々な取り組みを行い、不登校児童生徒数は増加しているものの、不登校児童生徒数の平均欠席日数は減少しており、取り組みの成果が表れているといえます。

不登校の対策については、未然防止に向けた取り組みとして、学びの多様化学校「学校法人 西濃学園」との連携をし、研究実践や各種研修会を実施することで、教職員のスキルアップを

図っています。また、ICTを活用した心と体の健康調査システム「ここタン」、教職員の教科指導、学級経営、生徒指導、特別支援教育に関する研修、研究所員や臨床心理士による児童生徒、保護者、教職員等へのカウンセリングを行っています。初期対応としては、校内のケース会議を行うことや相談窓口を周知するチラシの全保護者配布、電話・来所相談や臨床心理士による検査の実施、月の不登校児童生徒報告書への記載の徹底、研究所員や生徒指導相談員による学校のニーズに応じた支援を行っています。

その他に、学校内にある相談室を学校内教育支援センターに名称を変更し、全校に「ほほえみ相談員」を配置し、教室以外で安心して過ごせる居場所づくりに努めています。



※イメージ

ひろたかの所感

大垣市の不登校支援については、子供達の状況に応じたきめ細やかな支援を実施していることが理解できました。支援をするための人材が確保され、研究所が置かれている施設には子供達が学習やその他の活動を行う十分な場所が確保されています。また、家庭訪問による様々な支援や家族以外の人との関わりをもてる取り組みも行っており、手厚い支援体制が整備されていると感じました。

成田市においては、指導主事と少人数の指導員が、1つのスペースの中でなんとか工夫をして不登校支援を行って

り、限界を超えているのが現状です。不登校支援は、一人一人の状況が異なるため、1つのスペースで行うことは困難なことです。また、外に足を踏み出せない不登校児童生徒への家庭訪問による支援も、より充実させる必要があります。今後、不登校児童生徒数が増加していくことが予想されますが、不登校支援は困難を要することであり、十分な施設と指導員の確保を行うとともに、きめ細やかな支援体制を構築していかなければならないことが本市の課題と思っています。



別府ひろたか
プロフィール
PROFILE

生まれ
昭和43年1月12日、成田市花崎町に生まれる。

学歴
成田幼稚園、加良部小学校、西中学校、成田高等学校、
国際武道大学体育学部体育学科

職歴
元公立中学校保健体育科教諭(成田中学校・中台中学校 他)

趣味
佐原囃子演奏(花崎囃子連代表)

好きな言葉
「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」